

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

これまでの勝者が敗者に、敗者が勝者に(自動車産業)

1. 岐阜県の山あいにある廃校の体育館。そこに部品メーカーのエンジニアたちが日々集まっている。業界を揺さぶる車の電動化という「革命」。それを乗り越えるための戦いがここから始まる。岐阜県瑞浪市にその体育館はある。かつては中学校だった。そこへ全国各地から自動車部品メーカーのエンジニアらが足しげく通う。その数は2022年3月以降で400社延べ4000人に達する。
2. そこに何があるのか。米テスラの「モデルY」や中国・上汽通用五菱汽車の「宏光MINIEV」など海外製の電気自動車(EV)の部品4万5000点が所狭しと並ぶ。「テスラはこんな構造なのか」「この部品ならうちらでも作れるんじゃないか」。エンジニアたちが白熱した議論を交わす。
3. 少なくとも、瑞浪市の展示場に日参するエンジニアたちは違う。「血眼になってEVの設計思想を読み取ろうとしている」。トヨタ自動車の元エンジニアで三洋貿易の技術顧問を務める白浜光晴は話す。テスラのイーロン・マスク最高経営責任者(CEO)は電動化を自動車産業の「革命」と呼ぶ。これまでの勝者が敗者に、敗者が勝者になり得る。勝負はまだ始まったばかり。部品メーカーが生き残りをかけた挑戦に踏み出した。

(参考:「日経ビジネス」2023年10月23日号)

幹部へ活きた言葉

人と人の出逢いは命懸け

大谷 徹栄

(おおたにてつじょう・法相宗大本山薬師寺執事長)

1. 1990年、27歳から「心を耕そう」をスローガンに法話行脚を始めました。行き先はお寺に限らず、幼稚園や老人ホーム、企業、刑務所まで、全国ありとあらゆる場所からお声かけをいただいて話をさせていただきました。
2. 人と人の出逢いは、命懸けです。命と命の出逢いなんです。“「よっぽどの縁」があつてのあなたと私”これは若い頃から大事にしている言葉です。よっぽどの縁がなければ、あなたと私、命と命は出逢いません。挨拶の前には深くお辞儀をします。これは目前の方の命に無礼をしたくないからです。そして、死ぬ瞬間、自分の命に「付き合ってくれてありがとう」と言える。体と心が、そう深々とお辞儀し合ってお別れできたら、最高の生き方じゃないでしょうか。

(参考:「致知」2023年12月号)

人事・労務について

「話す力」がすべての土台に

竹内明日香(アルパ・エデュ代表理事)

1. AI時代に必要な力は何かとよく問われる。ポイントは4つある。まずは「問いを立てる力だ」。「問い」といっても、科学的な事象に対する「なぜ」もあれば、生きるとは何かといった哲学的な問い、「どのように」というHOWもある。日常生活で感じるささやかな疑問であってもまずは自ら問いを立てることが大切だ。
2. 問いがあれば他者に意見や協力を求めたり、テクノロジーを駆使したりしながら自分なりの答え探すようになる。その経験が、予測不可能な社会を生き抜く力の糧となる。2つ目は「創造する力」。ゼロからの創造でなくても、今すでにあるものを掛け算して新しい価値をつくれればよい。3つ目の「つながる力」は、チームで各自が強みや個性を発揮しながら課題を解決する中で生かされる。4つ目は「やんちゃの力」で、ソワソワしながら常識の殻を破る力のことを指す。これら4つの力を発揮するには「話す力」が重要になる。

(参考:「週刊東洋経済」2023年11月4日号)

古典に学ぶ

大切な世界観

1. 空海は、うつろいやすい心と「仏」と対比させ、「人の心はつかみどころがないが“わが仏”は、この世のどこにでもいる」と説きました。
2. あえてこの文を要約するなら、「捉えがたい心に翻弄される私たちが、本来は仏であり、世界のあらゆるところに存在している」ということです。これは密教において大切な世界観です。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)